

会議名	平成18年度（第61回）関東畜産学会大会
開催日時	平成18年11月14日（火）・15日（水）
開催場所	千葉県文化会館 小ホール（千葉市中央区市場町）
主催者	関東畜産学会 第61回大会委員長 鶴岡 則夫（千葉県畜産課長）
参加人数（概数）	約100名（学生会員を含む）
1. 会議の概要 （講演要旨、総会資料等添付）	<p>下記の内容による関東畜産学会第61回大会に参加して収集した一般発表および特別講演、シンポジウムからの関連情報のうち、関東地域における畜産技術開発のための課題等について報告する。</p> <p>11月14日（火） 9:30～12:00 一般講演 環境、育種、繁殖関連の9課題が報告された。 13:00～13:30 通常総会 13:30～14:00 日本畜産学会関東支部総会 平成18年度定期総会； 報告事項（平成17年度事業報告・会計報告・および会計監査報告、平成18年度事業提案事項（平成18年度事業計画案・予算案）について原案通り承認。平成18・19年度関東畜産学会役員を原案通り選出。次期開催県（栃木）を承認、大会委員長挨拶。 14:00～14:30 特別講演「千葉県の畜産事情」 農林水産部畜産課長 鶴岡 則夫 氏 千葉県の世帯数・人口に占める農家比率は3.5%と4.7%にまで減少。家畜数は横這い、畜産算出額は1,024億円で農業の24.6%だが、全国順位は低下傾向。嶺岡の種雄牛は廃用され、在庫精液の配布は続けるが、「乳用牛群検定情報分析センター」となった。肉用牛は増頭とブランド化を指向。養豚農家はエコフィードに関心。畜産環境は臭気低減と土作り支援センターを推進。家畜衛生はBSEと鳥インフルエンザ。 「NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター」を畜産協会を事務局として発足させ、会員募集中。 14:30～17:00 一般発表 繁殖、乳質、飼料・飼養管理、乳酸菌、関連の9課題が報告された。</p> <p>11月15日（水） 9:30～12:00 一般発表 ルーメン関連の7課題が報告された。 13:00～16:00 シンポジウム 食品残さ飼料化行動会議（農水省）との共催で開催（別途報告）。</p>
2. 今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表課題・話題提供名	（一般講演） 3. 「初産乳量及び乳成分に及ぼす育成成績の影響について 石井 貴茂ほか（茨城畜産セほか6県畜試共同） 体重350キロで受胎までのDGは0.98k程度までとすべきである。
3. その他の発表課題で関心のあったもの	（一般講演） 8. 「体細胞クローン牛の染色体解析」 飯盛 智子ほか（東京農大） 9. 「体細胞クローン牛における染色体の不安定性について」 雨宮 千明ほか（東京農大）

4. 今後研究開発 課題採択に当っ て参考とすべき 事項等	
4. 会議の所感	<p>一般講演 25 題の筆頭発表者の所属機関は、4 大学（私立のみ）3 研究機関で、そのうち事務局大学と開催県からで 11 課題を占め、前年度から更に寡占度が進んでいる。出席者も限られた範囲の者であった。関東畜産学会の大会開催の目的の一つが地域に対する情報発信とすれば、2 日目午後のシンポジウムが盛会であったことと併せ考えて、大会の開催について考え直さなければならない時期に来ていると感じさせられた。</p>
報告者	針生 程吉